

まえがき

本報告書は、2015年1月17日（土）に開催された、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「インクルーシブ社会に向けた支援の〈学=実〉連環型研究」プロジェクトの公開研究会、および人間科学研究所年次総会の記録である。

このプロジェクトでは、適切な支援によって多様な人々が社会参加できる「インクルーシブ社会」の実現に向けて、研究者と実務家が連携するための拠点形成を目指している。今回の研究会・総会では、当プロジェクトが取り組む対人支援の3つの側面（「予見的支援」、「伴走的支援」、「修復的支援」）を主なテーマとし、研究者や実務家による講演、パネル討論などを実施した。また、対人支援の国際連携に関する全体討論や、プロジェクト内外の研究者・実務家がインタラクティブに意見交換する場としてポスターセッションを設けた。

本研究会・総会ではまず、「Ⅰ 講演企画」（予見的支援チーム企画）として、高齢者支援に関わる研究と実践の両面で活動をされている北原靖子教授（川村学園女子大学文学部）を招聘し、高齢者支援だけでなく、様々な世代間のコミュニケーションを基本とした学びの環境づくりについてお話をいただいた。

「Ⅱ 対談企画」（修復的支援チーム企画）では、チームリーダーである中村正教授を司会として、修復的支援に関わる実務者と研究者の対談企画を開催した。ここでは、情状弁護や治療的司法に取り組む菅原直美弁護士と、犯罪行為に関わった知的障害者や高齢者への援助と刑事手続を研究する本学森久智江准教授による話題提供の後、上記3名による対談が行われた。

「Ⅲ パネルディスカッション」（伴走的支援チーム企画）では、司会の竹内謙彰教授の趣旨説明後、障がいのある子どもとその家族の支援に取り組む谷晋二教授、自閉症スペクトラム児と家族の支援に取り組む荒木穂積教授、対人支援における「情報移行」に取り組む望月昭教授が登場し話題提供するとともに、伴走的支援に関わる研究・実践の意義と課題について議論を行った。

「Ⅳ 全体討論企画」では、プロジェクトの中で海外機関との共同研究・実践等に携わっているメンバーが登場し、海外での実践的研究の事例紹介や課題に

関する議論を行った。

「ポスターセッション」においては、対人支援や人間科学に関わる理論的研究や実践的研究について23件の発表が行われた（発表タイトルについては本報告書の「資料 ポスターセッション」をご覧ください）。このセッションは昼食の時間と重なっていたにも関わらず、多くの方々にご参加いただき、活発な情報交換や議論が行われた。

研究会の締めくくりとして、独立行政法人科学技術振興機構社会技術研究開発センターの泉紳一郎センター長（本プロジェクト外部評価委員）から、今回の企画や本プロジェクトについてのご意見や今後の方向性に関するアドバイスをいただいた。

このように、今回の研究会・総会では、プロジェクト内の3チームが独自にセッションを担当し、それぞれのチームの活動内容に踏み込んだ講演や討論などを企画したことから、昨年度に比べてセッション数が増え、午前中から夕方まで長時間に渡るイベントとなった。しかし結果的には、昨年度を大きく上回る参加者にお越しいただき、かつ各セッションで大変熱心に聴講および議論へのご参加をいただけたことから、昨年度以上に充実した情報交換や意見交換の場を設定できたと考えている。このような研究会・総会での発表内容や議論をまとめた報告書が出版・Web公開されることで、インクルーシブ社会の実現、〈学=実〉連携、あるいはそれらに関わる国際的な協調活動について、社会全体としてさらに議論が発展していくことを切に願っている。

最後に、本研究会・総会でご登壇をいただいた方々、また議論にご参加いただいたすべての方に、この場を借りて心から感謝を申し上げる。また、研究会・総会の運営ならびに本号編纂に尽力いただいた、人間科学研究所事務局の難波しのぶ氏および片山詩朗氏の両名に感謝する。

文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
「インクルーシブ社会に向けた支援の〈学=実〉連環型研究」プロジェクト・代表
稲葉光行（政策科学部・教授）